

平成30年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

平成30年5月9日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 トルコギキョウ斑点病 *Pseudocercospora nepheloides* (= *P. eustomatis*)

2 発生作物 トルコギキョウ

3 発生経過

- (1) 平成30年2月、東広島市のトルコギキョウ栽培施設において、葉に黒～灰褐色のすす状の病斑が生じている株を多数確認した。
- (2) 農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、*Pseudocercospora nepheloides* を病原とするトルコギキョウ斑点病と同定された。
- (3) 本病は、平成20年に福岡県で初めて確認されて以降、平成28年に長崎県、高知県、熊本県、大分県、宮崎県、平成29年に和歌山県、平成30年に沖縄県で発生が確認されている。本県における本病の被害は初確認である。
- (4) なお、Braun (2009) らにより学名が *P. eustomatis* から *P. nepheloides* に変更された。

4 形態及び発生生態

- (1) 糸状菌の一種で不完全菌類に属する。子座は濃褐色で直径は40～50 μm 、分生子柄は淡オリーブ色の単条で叢生する。分生子は淡オリーブ色の円筒形～倒棍棒状、多隔壁（隔壁数1～6）を有し、大きさは長さ20～60 μm 、幅3～6 μm である。
- (2) 発生初期は5～10mm程度の退緑斑が葉に現れ、やがて黒～灰褐色のすす状病斑が葉の表裏に発生する。また、本病は夏期の高温期を除き、春から秋にかけて多湿条件下で多発する。

5 防除対策

- (1) 多湿条件では発生が助長されるため、施設内の通風や換気及び加温等により湿度低下を図る。
- (2) 本病に対する登録農薬はなく、病徴が進展すると防除が困難になる。発生初期にすみやかに罹病葉を除去し、感染源とならないよう施設外に持ち出して処分する。



図1 ほ場での発生の様子



図2 発生初期の退緑斑



図3 すず状病斑



図4 病斑上に形成された分生子

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所・西部病害虫防除所 (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662)

広島県立総合技術研究所

農業技術センター生産環境研究部 (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521)

農林水産局農業技術課

(〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559)

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>